

香川県広域水道企業団水道事業地区別意見交換会  
令和4年度会議議事録（東讃ブロック統括センター）

**会議日時**

令和5年1月20日（金）午後2時から

**場所**

会議室

**出席人数**

15人（委員8人、職員7人）

傍聴者なし

**議題**

1. 水道事業における取組等について  
東讃ブロック統括センターの体制、概要を説明
2. 令和4年の渇水とその対応について  
東讃地区の6つのダムの貯水率や応急給水所など、渇水の状況を説明

**【意見】**

放送を通じて渇水の情報はあるが、例年と対比した数値も併せた方がより節水の情報を共有できるように思う。

**【回答】**

次からは対比の情報を伝える。

**【意見】**

夏場の渇水は身をもって感じるが、寒くなってからの渇水はぴんと来ない。早明浦ダムが回復したから安心してはいたが、さぬき市と東かがわ市のダムの状況を知らなかったので情報を聞いて良かった。

**【回答】**

多くの方が早明浦ダムの貯水量で渇水を判断している。今は90%以上あるが、雨が降らなければ一気に減る。2月半ばには制限に入る予定。

**【意見】**

漏水の調査はしているか。

**【回答】**

定期的に地区を決めて行っている。また、配水池の流量を毎日見ており、多く流れた場合は漏水調査している。

**【意見】**

告知端末が無いので渇水の情報が入っていない。他にも知らない人はいると思う。

**【回答】**

委員の皆さんは団体とか地域の代表をされているので、人づてに伝えてもらえたらありがたい。

さぬき市も東かがわ市も告知端末はあるが、あまり聞いてない人もいるので、どのようなお知らせの仕方をすればよいか。

**【意見】**

テレビのニュースがいいと思う。経費をかけないのであれば広報紙の折り込みと自治会の回覧という形がいい。

**【回答】**

効率的に皆さんに伝わるやり方は自治会単位の回覧板で見てもらうのが一番いいかもしれない。

### 3. その他

**【意見】**

全般的なことで、企業団の広報を拝見したが、水道料金が前年より1億2,000万円減少しているが、これは過去最長の取水制限が原因か。

**【回答】**

渇水の影響もあって下がっているが、これは今年度ではなく令和3年度決算であり、それほど渇水の広報はしていない。一番大きい原因は人口の減少に伴う給水収益の減少である。

**【意見】**

そしたら毎年減るということか。

**【回答】**

はい。

**【意見】**

県内5つのブロックに分けているが、ブロックごとの収支は出るのか。

**【回答】**

令和9年度までは区分経理なので、各市町の単位で経理している。

**【意見】**

水道料金を滞納している方はいるか。県下の滞納率と東讃ブロックの滞納率は。

**【回答】**

県下全体の数字についてはわからないが、東讃ブロックにおいては98%~99.5%ぐらいまで徴収率が上がっている。残り0.5%が滞納になっている。

**【意見】**

0.5%の人は水道を止めるのか。

**【回答】**

最終的には給水停止させてもらいながら、納付方法を相談させてもらっている。

**【意見】**

異常気象や南海地震も近づいているという話をよく聞くが、自然現象はどうしようもないので、海水を真水に変える方策など、これから先のことを考えているか。

**【回答】**

科学がどんどん進んでいるので、実際いろいろな所で海水を真水にされているが、経費がいくらかかるかわからないので、香川用水の活用や、近くのため池、今は使用していない井戸など、使えるものは使っていこうという話が進んでいる。将来的には海水も考えないといけないかもしれないが費用が高すぎるので、まずは近くにある真水から融通させてもらえたらと思っている。

**【意見】**

丸亀市は令和5年の4月から基本料金を物価対策で補助するという形になっていると思うが、東讃ブロックではそういう話は何も起きていないのか。

**【回答】**

丸亀市の物価対策というか、コロナ対策の一環で1月検針分、3月検針分の期限付きで、4か月分の基本料金を免除するようで、丸亀市の施策であり企業団が下げるといふ施策ではない。丸亀市がそういう施策をとりたいと企業団に依頼があつて、免除した水道料金部分の全てを丸亀市から補填されるということで実施している。

**【意見】**

市町にお願いするしかない。市町がOK出せばいけるのか。

**【回答】**

はい。丸亀市はコロナ対策として国からの交付金を使って免除した相当額を企業団へ支払う。企業団は収入が減額されるわけではないので、市の意向を汲んで今回実施した。

**【意見】**

貯水率が例年に比べて20%しかないということと、自己水源も減ってきている。雨が降らなければ水が減っていくばかりで、何か考えないといけない。

**【回答】**

企業団になる当初の目的は、渇水対策を各市町で個別にやるのではなく、香川県という大きなスタンスで考えて、例えばさぬき市に水がなくても東かがわ市から水を送れるとか、高松市から水を入れられるとか、県下全体で水融通をしようということである。その上で、単体でやっていると必要な浄水場や取水ができるポンプ場な

ど、そういう設備を少しでも減らして効率的な運用ができるのではないかということが、一番大きなメリットとして取り上げられていた。効率的な運営をするために使っていた水源をなくすと、今度は渇水のリスクが上がる。当初の効率的な運営から自己水源をできるだけ残して豊富に水が取れるよう、危機管理を踏まえての計画に徐々に変更されてきている。施設を動かし続けるとそれだけ電気代もかかるし、数多くあると効率性を考えたら非常に難しく、コストは高くなるが、これだけ毎年渇水となるとできる限り水源を復活させて使用するという方向に変わってきている。

**【意見】**

ダム貯水率しか言っていないが、ダムの水が全て水道に使われていないと聞いている。

**【回答】**

門入ダムは多目的ダムで農業用水にも使われているし、飲み水にも使われている。12%となると、農業が4月5月になってくると田植えが始まる時に水が全くないような状況も起こってくる。水道だけで全部を取りきるわけにはいかないのだから、その水を残すためにも水道はどこから水源を取ってくるのか検討しなければならない。

**【意見】**

古い水源は全てを使用していないのか。

**【回答】**

全部ではない。ダムから直接水を取っていないのは大川ダムと五名ダムだけで、他はダムからの水を浄水して使っている。